

特別展

神戸で活躍した画家

林 重義 没後50年展

——情熱的に駆けめけた47年——

(展示室2・3)

1994年10月1日(土) - 12月4日(日)

開館時間 / 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

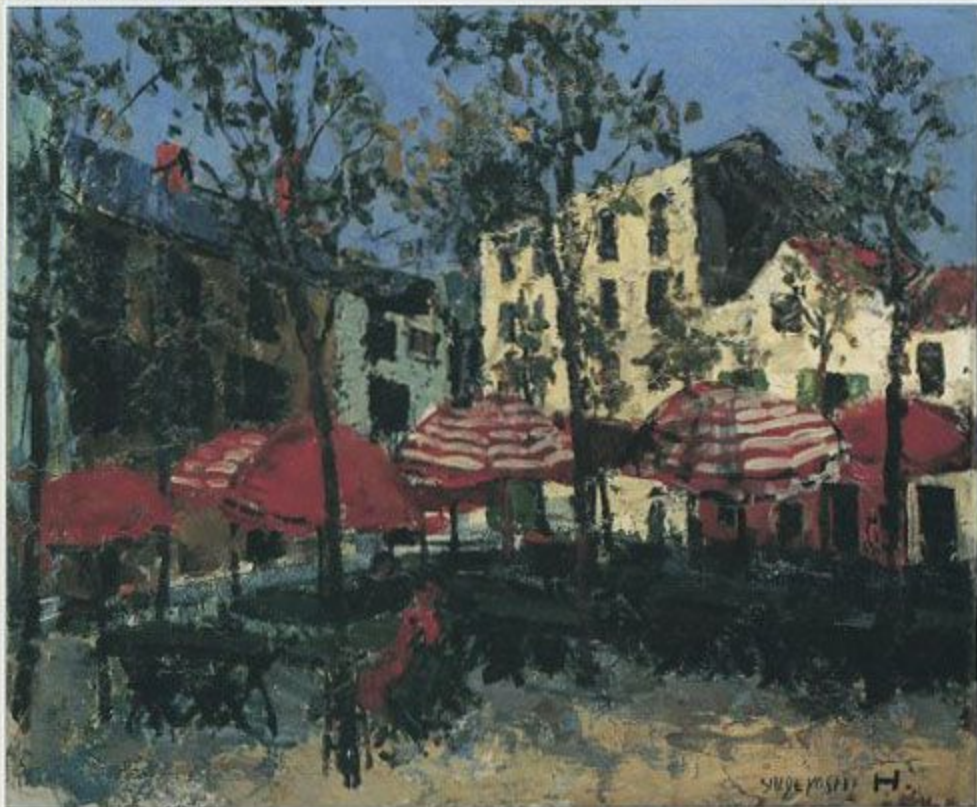
休館日 / 毎週月曜日(ただし10月10日祝は開館)・10月11日・11月8日

主催 / 神戸市立小磯記念美術館・神戸新聞社

同時開催 / 収蔵作品展Ⅲ (展示室1)

小磯良平の作品を展示

林 重義 「テルトルの広場」 1929年



神戸市立小磯記念美術館

〒658 神戸市東灘区向洋町中5丁目7 TEL.(078)567-5880

交通 / JR住吉駅・阪神常盤駅のりかえ、新交通六甲ライナー

「アイランド北口駅」(JR住吉駅から7分、阪神常盤駅から5分)下車、西へ徒歩すぐ



このチラシは国立近代美術館発行です。

KOBE CITY KOISO MEMORIAL MUSEUM OF ART

特別展 林 重義 没後50年展



「夜の自画像」制作年不詳
兵庫県立近代美術館蔵



「花売り」制作年不詳



「ウ・フラテリニ」制作年不詳



「舞妓」1934年頃
絵画芸術家蔵



「紅葉」制作年不詳
株式会社朝日ビルディング蔵

林 重義(1896-1944)は、明治29年神戸市に生まれました。はじめ日本画を学び、鹿子木孟郎に師事して洋画に転向します。

昭和3年ヨーロッパに游学し、帰国後再び神戸に住んでいます。帰国後、彼のもとに集まってきた若い画家たちを指導して後進を育てましたが、この若い画家たちの集まりは、「月曜会」として現在でもその活動を続けています。また、昭和5年に里見勝蔵らと独立美術協会を創立し活躍しています。しかしこの頃より体調をくずし、作風も次第に変化しはじめます。初期のルオーやドーミエに影響を受けたような重厚な作品は、舞妓や六甲山など日本の題材を明るい色彩で描いた作品へと変化します。ところが、こうして制作が新たな展開を見せようとしていたにもかかわらず、林 重義は昭和19年47歳の若さで没します。

本展は、林 重義の少年時代から晩年までの作品約130点を展示し、その画業をふりかえろうとする展覧会です。これを機に、神戸のすぐれた画家の作品を鑑賞していただければ幸いです。

◆講演会

11月3日(祝) 14:00~15:30
「神戸の画家 林 重義の軌跡
——フォーツから松谷へ——」

神戸市立博物館 学芸員 同藤正氏
場所/2階 絵画学教室にて、定員70名
(当日整理券を配布)

◆当館学芸員による解説

10月8日、22日、11月5日、19日、12月3日の土曜日
14:00~14:30 場所/2階 絵画学教室

次回展覧会のお知らせ

「第2回 小磯良平大賞展」(展示室2-B)

平成30年12月10日土~平成31年1月29日日

ピエンナーレ(隔年)形式で開催される全国公募の小磯良平大賞展の大賞作、佳作、入賞作を展示します。

同時開催「京橋作品展Ⅳ」(展示室1)

本館で収蔵している小磯良平の作品を展示します。

	大人	大学生	高校生	中学生
当日	600	500	400	250
前売	500	450	350	200
団体	450	400	250	100

団体は30名以上
前売は市営プレイガイドなどで発売

